



# 父母の声

## 卒業論文「人生は感謝と感動で(∧。∧)」

卒業する卒業生の父

1976年(昭和51年)の暮れ、滋賀県に住んでいた私は高速夜行バスに乗って東京秋葉原へ行きました。東京駅に着いたのは早朝で辺りの店はどこも開いていませんでした。寒さ除けに八重洲地下街に入ったのですが、やけにキーキーと音がします。後で分かったのですが夜間のネズミと酔っ払い除け?のようです。当時の趣味はマイコンで80系(インテル)プロセッサにはまっていました。なぜかは今から言えばちょっと変なので想像にお任せします。今でいえばアンドロイドかiOSか?ちょっと違った、ソフトウェアじゃありませんから。そんなことはどうでもよいので本題に戻ります。

秋葉原の電気街は開店が遅く11時ごろまで待たされやっとの思いで、ラジオ会館(今は本館が閉鎖)7階のサービスセンターBit-INNの中に入りました。そこでNECのマイクロコンピュータTK-80を目にしました。というよりこれが目当てにわざわざ親の反対を振り切って東京まで来たのです。これまで勉強してきたのはFACOM230、HITAC 8000、NEAC-2200、OKITAC 6000などの大型コンピュータがメインだったので、こんな小さなコンピュータがあるのや、ということから今から思うと感動だったのです。早速このキットと専用電源も含め送料の2ヶ月プラスα分も出して買い求めました。

買ってしまえばこっちのものという思いでした。キットですから持って帰ってもすぐに動くわけではありません。更にはプログラムを入力しなければなりません。もちろんC言語でもなくマシン語です。ここから勉強しないとイケないと思っただけで感動が覚める思いでした。そんなことは後で思い知ることにになりました。

帰路は国鉄(今はJR)で帰ることにしました。東京駅23時23分発大垣行です。この電車は人気が良いためたくさんの人です。30分前にホームに入ったのですがもう一杯です。仕方がなく車両の一番端の席に空き

があったのでそこに座りました。はじめは各駅停車のようでしたが途中から快速です。一番端なのでお客様の出入りは激しくそのたびに冷気が入ってきてとても寒い思いをしました。大事なマイコンは網棚の上は危ないと足元に置いておきました。朝方、大垣に着きそこから更に西明石行快速に乗り換えました。どちらも湘南型のかぼちゃ電車でした。

それから数日後に組み立てを始め一夜で完成させました。心を弾ませ電源ONでLEDに数字が表示して大成功です。サンプルプログラムを入力し完全に動くことが確認できました。この時はただマニュアルどおりに作業しただけなのに大感動でした。自分で作ることの楽しさを味わうことができました。

そうそう、まだTK-80のこと何も説明していませんでした。1976年8月3日にNEC(現在のルネサスエレクトロニクス)から販売されたマイクロコンピュータ、システム開発のためのトレーニングキットで価格は本体のみ88,500円です。CPUにインテル社の8ビットマイクロプロセッサ8080と互換性のあるμPD8080Aを使い、表示装置に8桁の7セグメントLED、入力に16進キーボードを備え、機械語でのプログラミングおよびその実行が可能でした。さらに、組立マニュアルの他に回路図とモニタと呼ばれる基本ソフトのプログラムリストが付いていたのです。CPU、ROM、RAM、I/Oチップなどの構成部品を1枚の基板上に実装し最小構成のマイクロプロセッサシステムを構成しています。通常ROMにはモニタ/デバッグプログラムが置かれていますが、ユーザーが自分用のプログラムに置き換えて各種の実験を行ったり、あるいはそのままそのボードを制御用部品として製品に組み込むこともできました。今でいえばPICとかArduinoといったところでしょうか。

そんなマイコンも時代の流れには勝てなく間もなくTK-80BSが出て、数年後にはPC-9801が花盛りになりました。このころにはTK-80の存在感がなくなって段ボールに押し込まれ倉庫の奥で眠ってしまいました。大掃除で取り出したとき電源を入れましたが何の表示もされませんでした。すでに7年くらい経っていたのでCPUでも壊れているのかと思っていました。それから何回もお目にかかりましたが壊れているので捨てようかと思ったこともしばしばありました。しかし、あれだけの感動を得たのだから粗末にはしてはいけないと今日に至っています。

38年経った今年の正月に、思い出したようにあの

自称名機TK-80を取り出し修理を始めました。さすがに使用した測定器も文明の利器です。TK-80より高価な測定器が力量を発揮し故障部品が特定できました。さっそく在庫品を探したら引き出しの中から出てきたので取り替え、電源をワクワクしながら入れました。やったあ！復活です。またまたあの素朴な感動が蘇ってきました。

一つで三度おいしいとはグリコだけではありません。生きていて良かったと思えました。良かったのは自分じゃなくてTK-80のことです。あの時捨てていたらいろんな感動は味わえなかったところです。このマイコンは何に役に立つのかなぁと思いつつ、ひよっとしたら花のように癒してくれるものだったかも知れないと密かにマイコンに感謝しているところです。

私こと、2001年から後援会活動をさせていただきましたが、勝手ながら卒業させていただくことにしました。46年余の社会人生活を顧みながら、いろんな課題を作ってくれた成り行きに感謝し、これからは新たな目標を求め進んでいきます。常に変化を求め、アイデアを現実のものとし更に感動を求めていきます。

貴重な時間を割き、お読み下さいましてありがとうございました。



## 自治会吹奏楽団

### 第38回定期演奏会

P学科2年 母

2013年12月22日（日）今年も恒例の定期演奏会が開催された。私は2回目の来場ですが、もう38回目ということは、大勢の卒業生が巣立っていかれたのだと思うと、歴史を感じます。伝統を重んじ、かつ新しきを取り込みとでも、趣がある演奏でした。

今回はパワフルを感じさせる演奏と指揮者のパフォーマンス。迫力があって心地よかったです。音楽素人の感想ですが…

寝屋川学舎では昨年から大学祭時に、卒業生参加を呼び掛けたホームカミングデーが開催されています。自治会の定期演奏会も一部、卒業生が帰れる場にして、合奏も聴いてみたい気がしました。楽器が演奏出来ない者として、とても羨ましい限りです。

音楽はみんなの心をひとつにし、うきうきとしあわせな気持ちにさせてくれるから。これからも、益々の活躍を期待いたします。

